

2024 年度 事業報告書

(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人 はなはな ひろば
理事長 吉田 亜希子

1. 法人事業活動報告

特定非営利活動法人 はなはなひろばの第 18 期目の活動は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日の 12 か月である。

期末現在の会員数は、27 名(この内休会会員は 1 名)、賛助会員数は 10 名である。

期中の新規入会会員は 2 名、脱退会員 0 名である。

2. 事業内容 <特定非営利活動に係る事業>

I) 親と子のつどいのひろば事業

～ はなはなひろば ～

- ・ ほっと安心できる子育てひろばとして、0 歳から未就学児とその養育者がいつでも自由に集える場の提供を目的とする。
- ・ ひろばの利用料は 1 家族 1 日 100 円。同じ日に再来することがあっても、一度受け付けていれば利用料はもらわない。
- ・ 現金を持ち歩かない現代の養育者の要望に応え回数券や月間パスを発行し、ひろば利用者の増加につなげた。
- ・ 月曜日から金曜日までの平日は毎日、偶数月の第 2 土曜日、奇数月の第 3 土曜日も開設した。毎週月曜日と水曜日の午前中を“赤ちゃんタイム”とし、主によちよち歩きまでの子どもと養育者だけがゆっくり過ごせる時間帯にした。
- ・ ひろばでゆっくり過ごせるよう 4 月よりランチタイムを再開し、おやつタイムは 11 月より再開した。
- ・ 日本語が理解しづらい利用者のために、英語版の利用のしおりを用意している。
- ・ 日常のひろば活動の他に養育者の希望も取り入れ、月 2 回程度のイベントを開催した。
- ・ 横浜市の「育児参加促進に資する取り組み」を実施し、土日に父親などが参加しやすいよう、養育者に向けたイベントを計画した
- ・ 養育者の育児負担の軽減を図るため、6 カ月から未就学の子どもの対象に一時預かりを行った。
- ・ 地域に関係なく何処からでも発信できることや、何らかの事情でひろばへ足を運びづらい養育者のために「子育てメール相談」窓口を開設している。
- ・ この事業は、横浜市「親と子のつどいのひろば事業」として委託を受けている。当期、委託金額は 9,545,000 円（うち一時預かりに関わる補助金は 1,788,000 円、家賃補助 1,440,000 円、研修代替職員配置加算分 46,000 円、震災対策補助 30,000 円、育児促進講座休日加算 412,000 円）。

④ 日常ひろば活動

通常ひろば活動日数：236 日（2024 年 8 月 30 日は大雨洪水警報発令のため休館）

利用組数：1,917 組 利用人数：3,990 人（内新規 108 組）

年度別広場利用実績推移

	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度	2019 年度
総開催日数	236 日	236 日	236 日	236 日	202 日	220 日
利用者数	3,990 人	4,063 人	2,904 人	2,480 人	3,381 人	3,650 人
1 日平均	16.9 人	17.2 人	12.3 人	10.5 人	16.7 人	16.6 人

2024 年度月別利用状況

月別利用状況	月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
	利用組数	134 組	106 組	143 組	142 組	156 組	173 組	177 組
	利用人数	279 人	216 人	294 人	292 人	347 人	358 人	368 人
	月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	1 日平均
	利用組数	182 組	156 組	165 組	173 組	210 組	1,917 組	8.1 組
	利用人数	378 人	320 人	340 人	362 人	436 人	3,990 人	16.9 人

a) 利用者の受け入れ

- ・ スタッフは子育て中の親が安心して寛げるよう心掛け、初めて来所した親子には、ひろばに打ち解け易いように意識的に働きかけ、居合わせた利用者に紹介した。
- ・ 来所した利用者を快く受け入れ、利用者の話は内容に関わらず、しっかり聞くようにした。
- ・ ひろばを利用する親同士が情報を交換し合うなど、ひろばでの出会いが新たな交流に繋がっていた。
- ・ 母親以外の保護者が利用するケースも増えた（父親・祖母など）
- ・ ホームページで知ったという以外に、友人からの紹介やひろばの前を通った時に気になり来所した親子がいた。
- ・ 不審者対策として玄関の施錠を始めた。それに伴い利用者の出迎えと送り出しに付き添う様になり、自然とちょっとした会話が増えた。
- ・ 小さいうちから子どもが保育園に入るようになってきているので、来所する子どもが低年齢化している。

b) 広報活動

- ・ ひろばの情報をより早く広く伝えられるよう、ホームページの他に SNS を有効に活用した。
- ・ 区役所・保健センター・地区センターなど地域の子育て支援に関わる機関や赤ちゃん訪問員の方にチラシを配ってもらう等で「はなはなひろば」の紹介や宣伝をしてもらえた。
- ・ 地域の子育て関連施設のチラシをひろば内に掲示、配架、または利用者に手渡しをして情報提供した。
- ・ おでかけわっくん、あおぞらひろばなどわっくんひろばや区役所の企画した公園遊びの場に出向きひろばの PR を行った。
- ・ プレママ向け企画はチラシを作成し区の窓口で配布してもらい、地域の助産師からも声をかけてもらうようにした。わっくんひろばでもチラシ配布やホームページでの掲示をしてもらっている。
- ・ はなはなに来た利用者の住居の場所によっては Lico の方が便利そうであれば紹介をした。
- ・ 鶴見公会堂で行われた「つるみ DE 子育て」のトークショー会場ではブースでのひろば PR を行った。

⑧ イベント

年間に催したイベントは次の通りである。

日常の活動を大切にするために、なるべくイベントの回数を抑えるようにし、今年度も月に 4～5 回程度開催した。講師は、地域の保育士、栄養士、元利用者、ひろばスタッフに依頼した。

イベント回数と参加人数

■ 通常イベント

イベント名	回数	参加組数	参加人数	内容
ママストレッチ	6 回	35 組	70 人	子育てで疲れのたまった体をケアするよう、普段の生活の中で取り入れやすいストレッチを講師から学んだ。
ベビーマッサージ	6 回	46 組	93 人	講師から個々のマッサージの意味や効果などの説明もあった。また、参加した親子それぞれへの対応も行った。
絵本とともだち	4 回	32 組	68 人	季節感のある工作や絵本の読み聞かせ・ペープサートなど多彩な内容で子供に飽きさせないよう工夫されていた。子どもが楽器に触れる時間も提供。
英語で遊ぼう	2 回	14 組	26 人	元ひろば利用者講師とダンスやゲームで遊びながら英語に親しんだ。
お話し会	10 回	64 組	121 人	読み聞かせボランティアの方が、その日の子どもの様子を見ながら絵本や紙芝居の読みきかせなどをして親子を楽しませてくれた。
保育園の先生と遊ぼう	4 回	31 組	56 人	近隣の保育園から先生にひろばへ来所を願い、手遊びや月齢に合った遊びを伝えた。その時々のお親の質問にも応じた。
保育・教育 コンシェルジュ相談会	1 回	6 組	12 人	鶴見区の保育・教育コンシェルジュに来所いただき、保育園の選び方、申請の仕方を説明。参加者への個別対応の相談の時間も設けた。
助産師さんの相談会	3 回	18 組	37 人	いつもの広場の中で気軽に話せるよう助産師が個別に相談にのってくれた。
産前産後の おしゃべりカフェ	4 回	7 組	14 人	授乳中の人でも飲めるノンカフェイン飲料を用意し、少人数でゆっくりおしゃべり出来る時間を設けた。

その他

夏祭り	1 回	47 組	120 人	お祭り気分を味わってもらえるように、内容に工夫を凝らしたゲームやフォトスポットを設けた。
開設記念イベント (11 月 16 日～21 日)		44 組	97 人	ひろばの開設記念日前後には利用者が飾り付けに参加をして楽しんでもらった。
誕生会	10 回	71 組	144 人	誕生日を迎える子どもに写真と手形をプレゼントし、参加した親子と一緒に歌を歌って成長を祝った。後期からは絵本の読み聞かせも行った。

■ 育児促進講座

父親などの養育者が積極的に育児に関わることを目的とする、横浜市が新たに推奨した講座。養育者に向けた内容の講座を土日に、年間 18 回開催した。

絵本の選び方・読み聞かせ方	2 回	6 組	13 人	お話し会の講師より、乳幼児にお勧めの絵本の紹介と養育者向けに絵本の読み聞かせのコツを学んだ。
母乳、卒乳までの話	1 回	2 組	4 人	元ひろば利用者の助産師に母乳、卒乳までの話を聞いた。赤ちゃんとの接し方の話しも聞いた。
乳幼児のお口のケア	1 回	3 組	7 人	元ひろば利用者の歯科衛生士より歯の磨き方や、実物を見ながら口腔ケア用品の選び方を学んだ。
乳幼児のお肌ケア	1 回	2 組	7 人	ベビーマッサージの講師から、赤ちゃんが肌トラブルを起こしやすい理由とケアについて話を聞き、参加者の個別相談にも応えてもらった。
プレママ・プレパパ講座	1 回	4 組	8 人	助産師に来所を願い、赤ちゃん人形を使って着替えや沐浴を体験。産後の過ごし方と心身のケアについても伝えた。
赤ちゃんってどうして泣くの？	1 回	6 組	12 人	助産師に来所を願い、赤ちゃんが泣いてもゆったり構えていられるよう話をしてもらった。
乳幼児の応急手当	2 回	13 組	31 人	誤飲、けいれんの時の対応、心臓マッサージの仕方、AED の使い方を生麦消防署の方から学んだ。
ペアストレッチ	1 回	4 組	10 人	体の歪みをペアになってチェックをしあい、カイロプラクティックの先生からストレッチを習った。
パパと工作段ボールで遊ぼう	1 回	8 組	19 人	沢山の大きな段ボールを使い自由な発想で家族一緒に物づくりをする楽しさを体験した。
写真・動画講座	1 回	4 組	10 人	プロカメラマンからスマホやカメラを使って子どもの動きのある写真や、かわいい写真の撮り方を教わった。
パパによるベビーマッサージ	1 回	6 組	14 人	父親対象のベビーマッサージで、父親が子どもと触れ合った。母親同伴の参加者もいた。
離乳食講座	1 回	7 組	17 人	離乳食を始めたばかり、又はこれから始める親子に対し近隣の保育園管理栄養士から離乳食について学んだ。
これって叱るとこ？ほめるとこ？	1 回	6 組	15 人	現役保育士スタッフから、叱るとき、ほめるとき、子どもがどうしてるか、反応はどうかなど向き合うことを学んだ。
0 歳からの性教育	1 回	6 組	15 人	元ひろば利用者の助産師より赤ちゃんがお腹の中で育っていく様子を実物大の人形で学んだ。日常の赤ちゃんとの関わり方の話しも聞いた。
アンガーマネジメント	1 回	4 組	10 人	スタッフがファシリテーターとなり、イラッとした時、相手に怒らず伝えるにはどんな言い方があるか事例をあげて話し合った。
手形アート	1 回	10 組	26 人	子どもの手形を使って花のアートを作成。切り花で飾りも作った。

合計 69 回 462 組 979 人（そのうち育児促進講座 18 回 91 組 218 人）

◎ 一時預かり

今年度の一時預かり実績は次の通りである。累計登録者数は3月末まで696名（今年度は57名）となっている。

一時預かり活動日数：236日

- ・ 預かり時のスタッフ体制は1人の子どもに対して必ず1人のスタッフを配置し、安全に細心の注意を払った。
- ・ 預かり登録数は増えつつあるが実際に利用するところまで至っていない親子もいる。
- ・ 他の子どもの預かりの様子を見て、利用を迷っている親が自分も預けてみようという気持ちになれるよう働きかけた。
- ・ スタッフの多くが預かりを担当するようになった。
- ・ 預かりの時に気付いた課題についてはその都度話し合いの場を持ち、スタッフ全員が共通認識を持つようにした。
- ・ 事情を抱える親子についてはスタッフ全員に周知し、預かりの際には落ち度のないよう細心の注意を払った。
- ・ 親の事情で急に預かりを依頼された時はできる限り要望に添えるようにした。
- ・ 預かり中は、通常のスタッフも積極的に預かりの子どもや担当スタッフへの気配りをした。
- ・ 預かりのある時に居合わせた親子が、預かりの子に優しく気持ちを寄せてくれていた。
- ・ 一度預かりを利用すると、繰り返し利用する保護者が多かった。
- ・ Licoの利用者がはなはなの一時預かりを利用するためにはなはなにも来るようになった。
- ・ 10月以降預かりの予約が増えた。1人につきスタッフ1人の体制では受け付ける事が難しくなり、断らなくてはならない日もあった。
- ・ 預かりの利用者は前年度に比べて約210%、利用時間は約190%となっている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
利用者数	8人	8人	15人	9人	11人	15人	29人
総利用時間	20時間	19時間	39時間	20.5時間	28.5時間	33時間	63.5時間
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
利用者数	25人	26人	21人	29人	25人	221人	105人
総利用時間	61.5時間	71.5時間	53時間	81.5時間	74.5時間	565.5時間	297.5時間

⑩ 地域との交流

- ・ 元ひろば利用者や近隣の方々からの好意で使わなくなった子供服やおもちゃ等の提供を受け、ひろばを利用する親子に譲ったり、フリーマーケット用などに充てた。
- ・ 同じ地域で活動している「NPO 法人 なまむぎこども食堂」との交流が続いている。
- ・ 鶴見区の「NPO 法人 つるみまっぷ」の活動に協力し交流した。（「ウエルカムベビープロジェクト」の広報と応募した母親へのプレゼント受け渡し）
- ・ 近隣の保育園や子育て中の親の会などから、会の案内やイベント等の情報が寄せられた。
- ・ 地元自治会と交流し、ひろば活動に関する情報提供を行った。
- ・ 赤ちゃん会や子育てサロンに出向き主催者や参加者と直接話をして交流を持った。

～ Lico ～

- 気軽に立ち寄れるひろばとして、0歳から未就学児とその養育者がいつでも自由に集える場の提供を目的とする。
- ひろばの利用料は、1家族1日100円。当日中であれば、再来しても利用料はもらわない。
- 現金を持ち歩かない現代の養育者の要望に応え回数券や月間パスを発行し、ひろば利用者の増加につなげた。
- 月曜日から金曜日までの平日、毎日午前10時から午後4時まで開所した。
- ひろば利用に定員はなく、1日を通して利用者が好きな時間に自由に利用できるようにした。
- ひろばでゆっくり過ごせるようランチタイムは4月から、おやつタイムは10月より開始した。
- 日常のひろば活動の他にイベントを企画し、利用者に喜ばれた。
- この事業は、横浜市「親と子のつどいのひろば事業」として委託を受けている。当期、委託金額は7,345,000円（うち家賃補助1,440,000円、研修代替職員配置加算分46,000円、震災補助30,000円）。

④ 日常ひろば活動

通常ひろば活動日数：225日（2024年8月30日は大雨洪水警報発令のため休館）

利用組数：1,658組 利用人数：3,474人（内新規 131組）

年度別広場利用実績推移

	2024年度	2023年度
総開催日数	225日	69日
利用者数	3,474人	984人
1日平均	15.4人	14.3人

2024年度月別利用状況

月別利用状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	利用組数	99組	99組	145組	155組	130組	150組	180組
	利用人数	208人	213人	306人	331人	282人	311人	366人
	月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
	利用組数	152組	155組	124組	119組	150組	1,658組	7.4組
	利用人数	311人	338人	255人	243人	310人	3,474人	15.4人

a) 利用者の受け入れ

- スタッフは親子が安心して寛げるような環境づくりを心掛けた。
- 初めて来所した親子には、ひろばに打ち解けやすいようにスタッフが意識的に働きかけ、居合わせた利用者に紹介するなどした。
- 来所した利用者を快く受け入れ、利用者の話は内容に関わらず、しっかり聞くようにした。
- 気がかりな親子について保健師さんとやり取りをしながら見守りをした結果、その親子の継続したひろば利用に繋がった。
- ひろばを利用する親同士が情報を交換し合うなど、ひろばでの出会いが新たな交流に繋がっていた。
- 母親以外の保護者が利用するケースもあった。(父親・祖母など)
- 鶴見区の支援拠点や他のひろばからの紹介、近隣の掲示を見てひろばにやって来るケースが多かった。
- 不審者対策として玄関の施錠を行っている。それに伴い利用者の出迎えと送り出しに付き添うため、自然とちょっとした会話ができています。
- 小さいうちから子どもが保育園に入るようになっているので、来所する子どもが低年齢化している傾向があった。

b) 広報活動

- SNS を活用して、よりタイムリーな情報発信が出来るようにした。
- 写真を多く使った SNS で興味をもった親子が、ひろばを利用する前からお気に入り登録をしているケースもあった。
- 子育て支援会場や地域の赤ちゃん会でひろばの宣伝の時間を作ってもらい、親子に直接話しかけチラシを配った。
- 自治会の方や民生委員と連絡を取り合い、ひろば近隣に看板を作成、設置をしてもらい、ポスターを張るなどして場所の周知を工夫した。
- 自治会の掲示板へチラシを掲示させてもらった。
- 地域の子育て関連施設のチラシをひろば内に掲示、配架、または利用者に手渡しをして情報提供した。
- おでかけわっくん、あおぞらひろばなどわっくんひろばや区役所の企画した公園遊びの場に出向きひろばの PR を行った。
- 産前産後ママ向け企画はチラシを作成し区の窓口で配布してもらい、わっくんひろばでもチラシ配布やホームページでの掲示をしてもらっている。
- 鶴見公会堂で行われた「つるみ DE 子育て」のトークショー会場ではブースでのひろば PR を行った。
- Lico に来た利用者の住居の場所によってははなはなの方が便利そうであれば紹介をした。
- はなはなでのイベントや一時預かり事業を利用者にお知らせした。

⑧ イベント

年間に催したイベントは次の通りである。

日常の活動を大切にするため、イベントの回数を月に 5～6 回程度開催した。利用者の要望に応え回数を増やしたり、Lico ならではの新たな企画を行った。

イベント回数と参加人数

イベント名	回数	参加組数	参加人数	内容
つねこさんのお話し会	4 回	26 組	52 人	近隣で読み聞かせを行っている方に来てもらい季節感のある絵本の読み聞かせ、パネルシアターなどをしてもらった。テーマに合った工作も行った。
誕生会	11 回	55 組	115 人	参加者全員で歌を歌って誕生児をお祝した。絵本の読み聞かせや写真撮影も行い、誕生児へはプレゼントとして、手形と写真入りのカードを渡した。カードは自宅で飾っている、との声も聞かれている。
足形アート	21 回	135 組	258 人	子どもの足形を使って、季節に合わせたテーマで足形アートを作成。毎月のように参加を楽しみにしてくれている親子もいる。
おやこで心のねっこを育もう	2 回	8 組	16 人	自己肯定感について学べる親向け講座。自信を持って育児をしてもらいたい、自分を大事にして欲しい、という講師の思いが込められており、参加者は頷きながら講師の話を聞いていた。
ベビーマッサージ	6 回	35 組	72 人	講師から個々のマッサージの意味や効果などの説明もあった。また、参加した親子それぞれへの対応もしてもらえた。
ベビーアート撮影会	4 回	31 組	63 人	床に背景を作るため、0 歳児の親子参加が多かった。養育者とスタッフが協力しながら、それぞれの子どもの写真を撮影することができた。
保育園の先生と遊ぼう	5 回	37 組	74 人	近隣の保育園から先生にひろばへ来所を願い、手遊びや月齢に合った遊びを伝えた。その時々のお話の質問にも応じた。
ハイハイレース	10 回	52 組	111 人	ひろば内にコースを作り、ハイハイのスピードを競った。表彰式ではどの子にも賞状を贈った。
保育教育コンシェルジュ	1 回	5 組	10 人	鶴見区の保育・教育コンシェルジュに来所いただき、保育園の選び方、申請の仕方を説明。参加者への個別対応の相談の時間も設けた。
産前産後のおしゃべりカフェ	3 回	3 組	6 人	授乳中の人でも飲める物を用意し、少人数でゆっくりおしゃべり出来る時間を設けた。
キラキラ飾りを作ろう	1 回	4 組	10 人	子どものお絵描きを型どってキラキラの飾りを作った。
夏祭り	1 回	31 組	73 人	お祭り気分を味わってもらえるように、内容に工夫を凝らしたゲームコーナーやフотスポットを設けた。
小学生による読み聞かせ	1 回	7 組	14 人	小学生が絵本を選び、子どもたちに読み聞かせを行った。
英語で楽しく遊ぼう	1 回	6 組	12 人	元ひろば利用者講師とダンスやゲームで遊びながら英語に親しんだ。
Hapy Halloween	1 回	23 組	46 人	ハロウィンにちなんだ工作や、フотスポットを用意した。
周年イベント	1 回	21 組	61 人	バルーンアートを作ってもらうコーナーや、工作コーナー、フотスポット等を設置。ひろば内に飾ったキャラクター探しなどで 1 周年を盛り上げた。
お楽しみ会	1 回	11 組	22 人	地域のケアプラザからサプライズのサンタが登場した。

合計 74 回 (490 組 1015 人)

◎ 地域との交流

- 近隣の保育園や子育て中の親の会などから、会の案内やイベント等の情報が寄せられた。
- 自治会や地域の方と交流をもったことで、ひろば周知への協力を得られた。
- 赤ちゃん会や子育てサロンに出向き主催者や参加者と直接話をして交流を持った。
- 東寺尾ケアプラザの地域担当の人が定期的に来られるので利用者との交流をしてもらっている。
- 鶴見区の「NPO 法人ままっぷ」の活動に協力し交流した。（「ウエルカムベビープロジェクト」の広報と応募した母親へのプレゼント受け渡し）

Ⅱ）おでかけ広場

近くに“おやこのひろば”のようなくつろげる場がない親子のために、鶴見区社会福祉協議会との共催で同社協の一室で「おでかけ広場」を開設した。

月 2 回、主に金曜日の午前 10 時～12 時の 2 時間。

開設：23 回 利用人数 127 組 255 名（1 回平均 前年度比 1.08%増）

- 利用する親子は、生麦にある「はなはなひろば」までは遠いので足を延ばしづらいが、「おでかけ広場」なら行きやすいというので利用していた。
- 「おでかけ広場」の利用をきっかけに「はなはなひろば」まで来たり、イベントに参加する親子もいた。

Ⅲ）子育てメール相談

- 以前にひろばを利用していた方以外はメールは無かった。昨今は様々な相談ツールが増えているためだとも考えている。
- 初めての子育てでは、経験者から見ればほんの些細に思える事柄でも、様々な子育てに関する情報が溢れているためにかえって不安を抱いてしまう場合がある。そのような時に話せる人がいなかったり、また自分から直接相談に出掛けにくい場合の相談ツールのひとつとして窓口の開設を続けてきた。

貸借対照表

2025年3月31日 現在

特定非営利活動法人 はなはなひろば

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金		102,713	
預金合計		4,071,228	
流動資産合計		4,173,941	
2 固定資産			
固定資産合計		340,000	
資産合計			4,513,941
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		817,850	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			817,850
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,874,216	
当期正味財産増減額		821,875	
正味財産合計			3,696,091
負債及び正味財産合計			3,696,091

2024年度 活動計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人 はなはなひろば

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費 正会員受取会費（賛助会費含む）	150,400	
2 受取寄附金 受取寄附金	62,300	
3 受取助成金等 受取補助金（横浜市子育て支援課）	16,898,000	
4 事業収益 利用料、一時預かり利用料	668,050	
5 その他収益 受取利息	1,712	
雑収入	14,760	
経常収益計		17,795,222
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費 給料手当	8,835,100	
人件費計		8,835,100
(2)その他経費 旅費交通費	809,100	
交際費	18,170	
公租公課	0	
事務用品費	190,777	
謝金	243,000	
修繕費	73,000	
消耗品費	914,792	
新聞図書費	94,828	
水道光熱費	244,937	
送金料	7,386	
諸会費	28,375	
家賃	4,920,000	
賃借料	4,100	
通信費	238,398	
保険料	110,630	
印刷費	62,400	
会議費	0	
備品費	124,719	
手数料	20,000	
雑費	33,635	
その他経費計		8,138,247
事業費計		16,973,347
経常費用計		
当期経常増減額		
III 経常外収益		
経常外収益計	0	0
IV 経常外費用		
雑損失		
経常外費用計		
当期正味財産増減額		821,875
前期繰越正味財産額		2,874,216
次期繰越正味財産額		3,696,091